

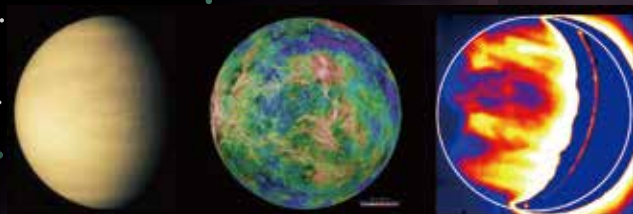
目に見えない光で観る惑星のすがた

日時

2014年10月18日(土) 14:30～16:00

講師

佐川 英夫 氏 (本学 理学部准教授)



可視光 (左)、電波 (中央)、赤外線 (右) でみた金星

太陽系の惑星と聞いて皆さんが頭に思い浮かべるイメージは、人間の目に見える光(可視光)で見た天体写真ではないでしょうか。実は、可視光以外にも、紫外線、赤外線や電波といった様々な光を使って惑星を観測すると、望遠鏡を目でのぞくだけではわからなかった惑星のすがたが見えてきます。これは惑星を照らしている太陽光の強さや、惑星をとりまく大気が光をどれくらい通すのかが、光の種類によって変化するためです。

さらにそれらの光をたくさんの色に分けるような分光観測を行うと、惑星上に分布する物質の情報なども分かってきます。今回の講演では、世界各地の様々な望遠鏡を通して得られた太陽系惑星の最新のすがたをご紹介します。



講師紹介

佐川 英夫 (さがわ ひでお)

京都産業大学 理学部 准教授

専門分野: 地球・惑星大気のリモートセンシング

会場: 神山天文台 地下1階 サギタリウスホール

申込み: 不要 (当日直接、神山天文台までお越しください。入場無料) ※満席の場合は入場できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

対象: 中学生以上の方

主催: 京都産業大学 神山天文台 **後援:** 京都市教育委員会

その他: 講座終了後には「アストロノミー・カフェ」(16:00～17:30)を開催します。お茶を飲みながら講師と気軽に会話を交えて頂ける機会です。どうぞ、くつろぎながらお楽しみください。

●当日は18:00～20:00まで天体観望会を実施しますので、講座と併せてぜひご参加ください。なお、天候不良の場合は宇宙の3D映像上映会を実施します。

(18:00～、19:00～各回30分程度)